

松蔭 校長室だより

2023年 7月 1日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです— 松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井宣光

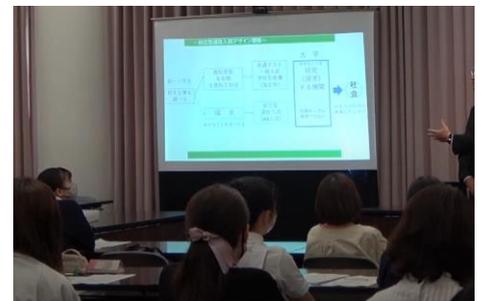
学校の最新ニュースもご覧ください ☞ <https://shoin-jhs.ac.jp/shoin-news/>

「大人というものはつつい子どもを『育てよう』としたり、『力を引き出そう』としたりして自分の思う通りに扱おうとしてしまいます。しかし、子どもは自分で育つものであり、力は出させられるものではなく自然に出てくるものです。大人にできるのは、子どものそういう動きが出てくるまで全力を上げて待つことだけです。」

(2023年6月27日「総合型選抜(AO入試)ガイダンス」 講師の先生が紹介した言葉)

大学入試制度の研究 「総合型選抜(AO入試)ガイダンス」

先月末、「総合型選抜(AO入試)ガイダンス」(高1、高2希望者対象)を開催しました。講師の先生は冒頭で「好きなことをやって大学選びをしよう」「この大学のこの先生の下で勉強したいという気持ちが大切」と口火を切り、出席した約50名の生徒・保護者の方は、総合型選抜の概要と今後の見通し、傾向や対策、各大学の過去例などについて、メモを取りながら熱心に聞いていました。国公立大学入試での「推薦・AO入試」の入学者数は入学生全体の23%。私立大学では「推薦入試」44%、「AO入試」12%となっており、年々、その割合が増加しています(2020年文科省調べ)。校内の高校生・保護者対象の進路説明会では、併設大学への内部進学制度(松蔭特薦)のほか、一般選抜(一般入試)や学校推薦型選抜(指定校推薦)をはじめ様々な入試制度について触れていますが、「総合型選抜(AO入試)」だけに特化した説明会はこれまで実施していませんでした。今後は、この入試方式での進学を希望する生徒に対する指導体制を整える予定です。入試制度や大学改革の最新情報については、進路指導部、高大連携室が集約して生徒にいち早く伝えるようにしています。自分の適性や志望に合う入試方式を選択し、進路実現を図ってほしいと思います。



未来への「種まき」—金融・経済・起業教育、理系・医療系教育の推進—

新しい学習指導要領では、高校生段階までに様々な分野の金融教育を授業で扱うことが明記されています。これは18歳選挙権や成年年齢の引き下げにより、社会に主体的に関わる力や、金融・経済に関する様々な知識と適切な判断力の育成が求められていることによります。中学校「社会」や高校の「公共」「政治経済」授業では、経済分野の学習としてこれまでとおり「分業」や「交換」、「貨幣のしくみ」に関する学習に加え、「スマホ決済」、「仮想通貨(暗号資産)」など革新的金融サービスの内容も扱います。また、社会貢献につながる起業を支える「クラウドファンディング」や「企業会計」のしくみ、「ガバナンス」の問題なども取り上げられています。中学「家庭」、高校「家庭総合」では、消費生活の観点から家計管理との関連する年金など社会保障制度や民間保険のしくみのほか、「資産形成」なども扱われています。

どの教科の授業においても教員の最大の苦勞のひとつは、教科書の標準的な内容を補足する教材探しや生徒が「自分ごと」として興味を抱く教育プログラムを見つけ出すことです。現在、学外リソースを積極的に活用して授業へ組み入れたり、補習として特別講座などを設けたりする方向で検討しているところです。

定期考査終了後の1学期末には、神戸大学経営学研究科と連携し、大学生によるワークショップ形式の金融教育プログラムを実施する予定です(中3DS対象)。また、同じ神戸大学学生によるアカデミックインターン(大学生の

「深い学び」に触れながら、進路や将来に対する目的意識を高める取り組み)として、アントレプレナーシップ(起業家精神)育成の探究授業を実施する予定です(高 IGL/中 3GS 対象。2 学期 11 月頃予定)。

理系・医療系分野の学びの意欲や、関心を高めるためのプログラムも策定したいと考えています。これまで本校では、理科教員が中心となり「星空観察」「解剖実習」「理科実験」などを実施していました。これらを学年の枠を越えた学校全体のプログラムとしたり、高大連携事業の枠組みを利用して、各大学からの医療系・看護系の出張講義やワークショップを開催したりする予定です。大学キャンパスなどの実習・実験施設訪問も魅力的な企画でしょう。将来的には、理系志望者の増加につながるように思います。

毎年 2 学期の初めには、学校から大学へ推薦する高 3 生を対象に校長面接を行っています。事前に提出してもらった志望理由書の内容について尋ねていますが、「将来的には起業したい」と語る生徒が年々増えています。未来社会に向けたマインドセットの「種まき」作業を幅広い分野で行い、生徒一人ひとりが自ら動き始めるタイミングを待ちたいと思います。松蔭女子学院モットーは、聖書の一節にある言葉「一粒のからし種」。その理念をこの場面にも生かしたいものです。

助成金(2022 年度の国、兵庫県、神戸市からの補助金)の報告

私立学校は、建学の精神にもとづく各校独自の教育方針により教育活動を行っていますが、社会に有為な青少年を育成するという点で、公立学校と同様に公教育の一翼を担っています。阪神間には本校を含めて長い歴史を持つ伝統私学が多くありますが、創立以来、各校とも自立した運営が求められてきました。学校を維持・経営し、社会に評価される私学としての特色教育の実践と、保護者の方々の校納金負担の問題は、いつの時代も適正なバランスを保つことが求められてきました。現在、私立学校振興助成法等に基づいて、国、県、市から公的補助として私学助成を受け、校納金負担の抑制を図っています。このたび、前年度(2022 年度)分の本校への助成金額が決定しましたので、報告いたします。

<2022 年度分の本校への私学助成>

○兵庫県経常費補助金等	288,267,200 円
○国庫補助金	1,354,000 円
○神戸市補助金等	2,153,803 円
(*就学支援金	38,603,400 円)